

# ホタル舞うふるさとに学ぼう

～ホタルと地域のかかわりから自分たちにできること～

教科・領域 総合的な学習の時間

下関市立西市小学校5・6学年

## キャリア教育の観点

国の天然記念物に指定されているゲンジボタルを核とした地域振興や観光への取組について学び、地域の一員として自分たちができることは何かを考え、実行する活動です。

- ① ホタル舟、ホタル祭り、地域内の観光施設やイベントなど、地域振興のための取組やそれにかかわる人々の仕事や思いを知る。
- ② 環境保護、地域振興等にかかわって、地域の一員としてできることを考え、実行する。

【人間関係形成・社会形成能力】【自己理解・自己管理能力】【キャリアプランニング能力】

## まちを元気にする取組を知る

児童は、1年生のときからホタルの幼虫の飼育・放流を経験してきている。また、毎年6月に行われるホタル祭りは地域を挙げてのイベントで、町内はもとより他県からも多くのお客さんでにぎわい、児童にとっても町内の人々が連携協働して一つの祭りをつくりあげていることを強く意識する機会でもある。

ホタルシーズン前の5月、町の観光協会やホタル祭り実行委員会の方々をゲストティーチャーとして、5・6年生が「ホタルの授業」を受ける。人口が減り、高齢化が進む中で、まちの活性化のために取り組んでいることを学ぶ。観光施設やイベントだけでなく、その背後にある地域への思いや願いも児童に直接伝えていただいている。

ゲストティーチャー	学 習 内 容
○ 観光協会スタッフ	観光施設、イベントの紹介
○ ホタル祭り実行委員会	祭りの歴史、運営、お客さんへの思い
○ 道の駅駅長	まちづくり、観光振興への願い

ホタルの授業では、観光協会のスタッフから町内にどのような観光施設があり、いつ、どのようなイベントが開催されているかについて、写真などの資料を交えて説明していただいた。また、なぜ自分が観光協会という仕事を選んだのかについて、ふるさとのよさや素晴らしさをたくさんの人に知ってもらいたいという願いや、一期一会の気持ちでお客さんと接しているという思いなどを直接語ってもらった。

ホタル祭り実行委員会の方からは、親しみやすいクイズを交えながら、なぜホタル舟の運航を始めたのか、お客さんがどこからどれくらい来られるのか、お客さんの期待に応えるための工夫や努力など、通常児童がふれることのない祭り運営の話をしていただいた。

ホタルの授業を終えた児童は、今まで知らなかった観光事業への取組やお客さん・地域への思いを知るとともに、ゲストティーチャーからの、「君たち小学生も地域の一員であり、地域を元気にするためにとても大切なことをしているんだ。」という言葉に、強い感銘を受けたようであった。



## 地域の一員としてできることを実行する

### 児童がゲストティーチャーにあてた手紙から

- ホタルの授業では、観光協会の方のお話を聞いて、豊田町にはこれほど素晴らしいことがあるんだとあらためて知りました。
- ホタルの授業では、豊田町のいろいろなお話を聞かせてもらってうれしかったです。こんななかだけど、いろんないいところがあるんだなと思いました。それに藤棚の黄色い旗をかざるのも、観光客のみんなに幸せになってもらいたいという願いも素晴らしいなと思いました。
- ホタルの授業で学んだことをホタルの飼育で生かしたらいいなと思いました
- ホタルのことをもっと学びたいと思いました。ほかにも、ホタルのことを大切にしくちやいけないと思いました。これからも豊田の町を大切にしたいです。

### (1) ホタル舟・乗船場の清掃

児童は、ホタルの授業をとおして、地域のために自分たちができることに一生懸命取り組もうという意欲が高まってきた。

ホタルの授業の余韻がまだ残る3日後、ホタル舟の運航を前にして、5・6年生全員でホタル舟や乗船場の清掃を行った。ホタル祭り実行委員会や商工会の方なども加わり、大人も子どもも一緒になって、まもなく各地からやってくるお客さんのことを思いながらぞうきんやブラシでひたすら磨いた。



- ホタル舟のそうじをして、豊田の人がこんなにホタルを大切にしているんだなと思いました。私は、ホタル舟をそうじしているうちに、頭の中に舟に乗るお客さんの笑顔が浮かびました。
- ホタル舟のそうじでは、地域や伝統のために一生けん命働くことの素晴らしさを改めて実感することができました。
- ホタル舟のそうじをして思ったことは、地域の活動に参加できたことです。そうじは大変だったけれど、ホタル舟に乗ってくださる人が増えていったらいいと思います。これからも地域のためにがんばります。



### (2) ホタル祭りでの金管演奏

ホタル舟の清掃から3週間後、6月の第1土曜日にホタル祭り前夜祭が開催された。毎年ステージで5・6年生全員による金管演奏を披露し、祭りのオープニングを盛り上げている。

専門的な指導者が校内にいないため、外部から数回指導者に来ていただくほかは、児童による教え合いが欠かせない。6年生は、初めて金管楽器を手にした5年生にマンツーマンで学期の持ち方から教え、ちょっとした進歩も認めて励ましている。5年生は早く演奏できるようになりたいと、6年生が教えてくれることを忠実に守り、楽器を家に持ち帰って練習する子もいる。

4月から毎週、祭りでの演奏を目標に練習を重ねているが、ホタルの授業の後は、お客さんにいい演奏を聴かせたいとの思いを一層強くして練習に打ち込んだ。





- ホタル祭りでの金管の発表は、練習通り演奏できたし、練習の成果も出せたので良かったと思います。多くのお客さんに金管の発表を見て、聞いてもらえてよかったです。
- 6月8日に金管の発表でした。ホタル祭りだったので、たくさん人がいました。練習よりすごくよかったのでうれしかったです。たくさんの人に、はく手をもらえてよかったです。

### (3) ホタル情報員

地域にあるホタルの里ミュージアムからの依頼で、一部の児童がホタル情報員となり、家の近くで見たホタルの数を毎日数えている。学校を通じて翌日にホタルの里ミュージアムに報告し、発生状況がミュージアムのエントランスに表示され、各地からホタル観賞に訪れるお客さんへの情報提供となっている。



また、ホタル情報員は、ホタル飼育研究委員会の方とともにホタルの成虫を採取して卵を産ませている。かえった幼虫を、全校児童で飼育し、育ててから川に放流する活動をとおして環境保護への関心を高めるとともに、地域に貢献する意識をもつことにつながっている。

## 考察・課題

上記の活動は、本校においては従来から行われている活動である。しかし、キャリア教育の視点から捉え直すことで、児童に身に付けさせたい能力やそのための活動の位置付けや関連が明確になってくる。

この事例においても、ホタルの授業で来ていただくゲストティーチャーには、何のためにこうした取組や仕事をしているのかという内容を取り上げて話していただくことで、児童が働くことの意義や地域でがんばる大人の存在に気付いている。さらにその後の体験活動を大人とかかわりながら行うことで、自分の力が地域のために役立つという実感を一層強くしている。

6年生は、その後の総合的な学習の時間で「今の自分、将来の自分」をテーマに、中学校の職場体験や発表会の見学を行ったり、めざす職業や大人像について自分たちで調べ、考えたりする活動につながっていく。こうした取組を通じて身に付けさせるべき力をより具体化していくとともに、小中学校の9年間を見通したキャリア教育のゴール設定をどうするか、小・中学校が連携協力して創り上げていく必要がある。

**キャリア教育の目標：**よりよい人間関係をつくりながら自分や友だちのよさに気づき、夢や希望のある生活や将来を創り出していこうとする意欲や態度を育てる。

#### 【夢や目標を考える3つの視点】

##### 自分がしたいこと

様々な体験などを通じて自分がしたいことを見つけ、将来の夢につなげる。

##### 自分ができること

夢や目標に向け継続的に努力し、自分ができていることを増やし自分のよさを伸ばす。

##### 社会が求めていること

社会の一員としての自覚を深め、自分の役割を果たそうとする意欲や能力を高める。

